

310名 度年取 目の優勝 の優勝

報告・文責●石井直人(秋田高専)



団体戦優勝・仙台高専名取キャンパス

3連覇中の岐阜高専を接戦で破る

56回目を迎えた全国高等専門学校体育大会柔道競技が、11月1日・2日、秋田県立武道館で開催された。昨年度は新型コロナウイルスの影響で中止となり、2年ぶりの開催となった。1日目は団体戦、2日目は個人戦が行われ、団体戦は仙台高専名取キャンパスが優勝を果たした。

団体戦は全国の地区予選を勝ち上がった11チームが、全国優勝の栄冠を目指し熱戦を展開した。予選リーグを突破したのは、岐阜高専、香川高専高松キャンパス、秋田高専、仙台高専名取キャンパスの4チーム。大会3連覇中の岐阜高専は予選リーグから準決勝まで無失点の危なげない勝ち上がりで決勝進出を果たした。仙台高専名取キャンパスは予選リーグを充実の内容で勝ち上がり、準決勝戦では秋田高専との東北勢対決を制し3年ぶりの決勝進出となった。

▼準決勝

岐阜高専 4-0 香川高専高松キャンパス

仙台高専名取キャンパス 3-1 秋田高専

▼決勝

仙台高専名取 2-1 岐阜高専

⑥板橋 栄輝	引き分け	日比野翔大
⑧松葉 大志	引き分け	牟田 彩人
⑨大津 陽人	△腕臧	○牟田 麗人
⑩佐藤 瑠久	○(技あり)	△永縄 洗聖
⑪藤原 一貴	○反則負	△伴 音示朗

先鋒、次鋒は両校譲らず引き分け。中堅戦は岐阜唯一の5年生・牟田麗人が気を吐き、試合終盤の2分30秒、背負投からすかさず寝技に移行し、関節技で一本勝ち。岐阜高専が均衡を破った。しかし、仙台高専名取キャンパスは重量級のエース格2枚を副将、大将に据

えており、十分に余力を残す。副将・佐藤(仙台名取)は得意の払腰を連発し、45秒に「技あり」を奪取、優勢勝ちで大将戦へ望みをつないだ。

大将戦、引き分け以上で優勝となる岐阜に対し、勝利しかねない藤原(仙台名取)は序盤から体格差を活かし猛攻を仕掛ける。伴(岐阜)は相手の圧力をかわし切れず、偽装の攻撃・場外・場外と立て続けに指導を3つ失陥し、反則負け。終盤の大逆転で仙台高専名取キャンパスが栄冠を勝ち取った。



↑団体戦決勝・副将戦 永縄(岐阜)を払腰で攻める佐藤(写真右、仙台名取)
↓団体戦決勝・大将戦 藤原(写真左・仙台名取)が体格を活かし伴(岐阜)を攻める



↑団体戦2位・岐阜高専



↑団体戦3位・香川高専高松キャンパス



↓団体戦3位・秋田高専

【女子個人戦】

●48kg級		
優勝	佐々木未来	(仙台名取)
2位	高城 唯	(宇部)
●52kg級		
優勝	小池 沙弥	(豊田)
2位	篠崎 万葉	(小山)
●57kg級		
優勝	森 聖愛	(和歌山)
2位	千葉 愛徠	(一関)
3位	渡邊江利子	(小山)
	月折優里明	(八戸)
●無差別		
優勝	雑賀 天寧	(岐阜)
2位	岡本 凜	(新居浜)
3位	佐藤 歩瑠	(仙台名取)
	佐藤 洋子	(産技品川)



↑女子48kg級入賞者、左から優勝・佐々木、2位・高城
↓女子52kg級入賞者、左から優勝・小池、2位・篠崎



↑女子57kg級入賞者、左から優勝・森、2位・千葉、3位・月折、渡邊
↓女子無差別入賞者、左から優勝・雑賀、2位・岡本、3位・佐藤



女子個人戦。48kg級は右組みの相四つ、佐々木(仙台名取)が終始組み手争いを優位に進め、1分4秒大内刈「技あり」、2分46秒小内刈「技あり」合わせ一本勝ちで優勝を決めた。

52kg級は開始早々の4秒、小池(豊田)が組み際の背負投で「技あり」奪取。その後も守る事なく、背負投を中心に果敢に攻め続け、指導を一つ追加し試合終了。初優勝を飾った。

57kg級決勝は、森が終始組み手争いを優位に進め、千葉の偽装的攻撃による指導2つを引き出すと終盤の2分55秒、大外刈「技あり」を追加し完勝。

無差別決勝は体格で劣る雑賀であったが、相手の圧力をかわしながら背負投で何度も岡本を腹這いにさせ、1分4秒と2分47秒に指導を2つ奪い、激戦となった無差別を制した。

【男子個人戦】

●66kg級		
優勝	牟田 麗人	(岐阜)
2位	佐々木慎乃佑	(秋田)
3位	今井 松慶	(仙台名取)
	小藪 奏大	(和歌山)
●73kg級		
優勝	小坂 龍河	(秋田)
2位	大津 陽人	(仙台名取)
3位	井口 陽登	(和歌山)
	宮本 祥英	(石川)
●81kg級		
優勝	日比野 将大	(岐阜)
2位	小林 想	(秋田)
3位	村永 祐晟	(都城)
	岩本 凌汰	(長岡)
●無差別		
優勝	嵯峨 佑哉	(秋田)
2位	鈴木 信吾	(豊田)
3位	今岡 天太	(津山)
	武田 海成	(釧路)

男子個人戦。66kg級は牟田(岐阜)が団体・個人通じて頭一つ抜けた実力を発揮。決勝戦は長身の佐々木(秋田)を問題にせず、25秒に袖釣込腰「技あり」、56秒に帯取返「技あり」合わせ一本の圧勝。2年前の前大会は60kg級を制しており、2大会連続優勝となった。

73kg級は小坂(秋田)が手堅い柔道で着実にポイントを重ね決勝進出。決勝戦は大津(仙台名取)との同地区対決となった。試合中盤に大津が寝技の攻防から不用意に引き込んだところをすかさず横四方固に抑え、13秒で逃すも「技あり」。このリードを守り切り、5年生にして初優勝を飾った。

81kg級の決勝は8月のインターハイにも岐阜県代表として出場した実力者・日比野(岐阜)と小林(秋田)の対戦。終始組み手争いで優位に立った日比野

が1分28秒背負投「技あり」、2分45秒巴投「技あり」を奪い一本勝ちで実力の高さを示した。

無差別は開催校枠で出場した嵯峨(秋田)がこの日絶好調。鈴木(豊田)との決勝戦は好試合となった。立ち技と寝技で激しい攻防を展開するも3分で決着は付かず、延長戦へ。延長戦開始58秒。鈴木の出足払にタイミング良く内股巻込を合わせ「技あり」で決着。嵯峨が地元開催の今大会を有終の美で飾った。秋田高専は男子個人の全階級で決勝戦に進出する快進撃であった。今大会は無観客試合であったが、地元秋田での開催を大いに盛り上げた。



↑男子66kg級入賞者、左から優勝・牟田、2位・佐々木、3位・今井、小藪 ↓男子73kg級入賞者、左から優勝・小坂、2位・大津、3位・井口、宮本



↑男子81kg級入賞者、左から優勝・日比野、2位・小林、3位・村永、岩本
↓男子無差別入賞者、左から優勝・嵯峨、2位・鈴木、3位・今岡、武田

